[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉井

[illegible]天地開きはじまりしより天神七代地神四代よりはじまりぬ
[illegible]事世間のうつほのもとをしれみをとの釣針をうめなくして海島より釣をとられよ
釣針を魚をとられぬ洗由を兄弟
よりを去ぬをとり針をぬきと
宮殿をつくし針をつくりて
[illegible]
ざるを海中よりの釣針を見
と思ひ立てくいたづらをすることも
をとれぬをほづをの翁のをしへ
[illegible]

上方
をとれぬ道を行くとく海
[illegible]
[illegible]海の都とをれば水もなく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みのうら殿でハそもとまのあたりなく
ぞうもぎあり　ほやほやまぶ私ぬめよ
ぞ乙孫乃さそう隠きあげて見
ぬ乙ぬ乙ぬかうぶも仔ぶれぬやん
宮殿不審ハ釣針と魚よと
ら富で見く生寿ひ来る宴とハ行
くとやハ伝ハ妻くかうぶ乙べし
おうぬぬぬぬぬ龍宮ぶ乙宮
かくぶ乙ぶ乙ぶ乙

かくよばせてとりつめちまくよだを
きこしめいりたんと語り給へば
かつは恋慕く思召まづてうさんを
尋つは國よりくしやべ
うこのいうあらべ堀満ひろしてぶよ
つのおとをるよりおぶ恋よばきて
國も久しうあめよりくるまに手
の外掘とおりて豊姫もたぶぬ
ぬ月日経おく二年を送り
給へ　かくて三年よ成ぬきば我
國よりくるのちくべし海路のたろ
めやあらん　心やもく思召ばる
つ宮ともおれて海中に奇あ
高くあり　大日おぞ
てとのせ　堅めよ送つ
其夜はまを祈りませ
堀ろおもてうべうら暮ぬ
なり　上地　杖のくおとをすぎ少豊
姫おようこへて姫宮銀ほ
おとをうあるよちぎりば釣を
侍ぶつうやえ持手
まるこの君のめいよ隠ひつ
宮ろてうさんを寿て天孫のみま
ぶくまつる　堀満ひろ
おとをぐてうさんよろへけ
業をとうり姫おようを抽を
して舞ぶ　行きも幽ぶ
神ぶ國のうぶまか

[illegible]

景清

[illegible]

我父悪七兵衛景清、平家の味方たるよりぞ[illegible]ぬ。[illegible]宮殿とりやく流さるく年月を送りぬ。[illegible]

草のまくら露とうつくしきもの。[illegible]目模[illegible]をまもりぬ。[illegible]

舟の[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]

いつ迄ねうねの夢よ初てんく
やうく[illegible]ほどよ[illegible]や日の国
宮詣とやよ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]門[illegible]と[illegible]尋ねつゝ[illegible]
[illegible]清[illegible]時の[illegible]
わさまへと暗くたる竜宮よ[illegible]
[illegible]寒[illegible]
[illegible]世と宵[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と一度ちぐごよ門前うたき由伝ら
ましひひく是とつうく此下向すて
迯乃事と知べきやうよ伝わひ
て景清よひき合さとして給りと
言語道断拙い景清の中息ゆく
此内くかまつ忠を為めくゆメられと
景清を両服弁まくてさ的
おさに繋と打ろ日向の勾當と名
とつ為ひいつうと光核へを左れを
拙うごときの者の様をとつく
命を盗つさんが青よりくへる所の横
を取てけきて此おあきと打景
とて此某ら人伝景清と呼と
しく新りあうべてみべ長河出前

あつく芳人の性あ信へ有ら人海と
おく景清のわて此悪七兵衛景
清のわてうの　　まくけれき
だよ故郷の者とて事を洗き
ばうとてらて知てと
さ千代乃悲涙たとと
多ハ夢のうられあ
うけくどハ洗面よあきあと
如たる人食と悪七兵衛景清と
どくよ
秋名ハ洗国の　　日向と名よ
ぐく向れたられとむ
御捨ー様ら　　
名の悪忍きとけ

[illegible]

いやいやいたきものすてゝ[illegible]
かゝびぬぬ掛[illegible]ん前よ景清と寿
[illegible]人いあいから　いやいや[illegible]
[illegible]寿[illegible]人いなゝ[illegible]
[illegible]を[illegible]や[illegible]寿[illegible]
[illegible]て[illegible]寿[illegible]
[illegible]
[illegible]面[illegible]
[illegible]
[illegible]露[illegible]
[illegible]
[illegible]親
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸奥陣を海岸よりつくりまよ勝負
をきつせんとほつしと紙や手数經の
先まつやう去年もう風のしろ山後
中の水鳥ひとり離れて遠一度
も陸奥乃郎あつつすそくよ義
經くりうとしみさよりつくあり
いつもしく九郎とうたんつうと
出うあ風ほしきれと宣へ景清忠
よりやう判官あれとてれよ非
みくもあつへうつ命をとてば
あんと思の数經よ家朝の脚乞陸よあ
ずれば源氏の兵ぬ風とまりとていき
上青門
ぬよ　かぎきよられを見てく
ぬきのやとタ自景清ものひら

めりひくきつくかれてくもどして
ぬ母をひくる兵を西方へぐつどそみよ
きまのつけりと　いまり屋うた
ぬよく源平たびひまんるめもも
つ一人をどめんらすへあんのうら物
でわきいよかひもぐおよ平家の
侍悪七兵衛景清とぬ家かきく
手どうよせんとてもくけぬほの
やかきたうきる甲のたうと敵をつ
し知をつ二三度よきのひれども
一敵なきのかけりと鬼カ甲と
虎とうぬいやとけ打よたうへき
きて此よとまれも生へちきへよき
のびぬ遠よ陸て立つう去ても

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其沢よりのやまとうひ給いそ　光ハ諸
國一見乃者ゆえ杜若の面白さに
詠歌をしたい拙宅をば行くとしいず
是社三河國八橋とて杜若乃名所
なるゆえ伊勢物語ハ杜若乃花乃
名所なきゆえ　もうほてもしらさ
ぬべくての花のかうれ男乃ありさま
びて夜乃さ詠乃ふへり意志乃
様子乃如　うつ三河國八橋乃杜
若乃花ハ色ふかく繽紛きとあり伊勢
物語乃言乃葉や伝聞度うえ
いせ物語よりやく宮とハ橋といひきる
ゆえ行ぐのくもてあきハ橋をやつ
たきるあり是ぶ杜若のいて面白く

咲しきたるとぞ人杜若といふ五文字
を句乃かしら置くなれの心をよめと云
きれば廣ぎきあれ　ありまあれ
ぐるく来めるなれとうそ思ひでき
杜鳳の業平ハ洲杜若をとうみて
あり面白や拙ハ洲東のりて國ぐ上
業平ハ下ぐ行ひきるか
ありきぬ河ハ洲ハ橋ハ家のうう
ぐ心乃奥深きるかくのみう
とぐ　國ぐ所ハ多まれば取つき
心の来かきて　男ぐ度ぐしハ橋乃
三河の澤ハ杜若　ゆくきめる橋
そぞ　思ひのくぐをうあうして
主ハ人ぐ業平ハ杜去　笹の花を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と葉平の本地薬師の[illegible]

普く[illegible]度利生の道より[illegible]

きめ[illegible]涙[illegible]きつや[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

故殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二人静

早苗

昔八みよし野勝手明神ぎよつ
えや者ゆくゑ拾も前社よりさ
御神ゆ様ゑ社廣の中ゆ月
百ゆ月ゆ三ゆ月ゆ三ゆ葉をつませ
神前ゆ仕へゆ白ゆ相ゆ
てゆ社ゆ女ゆ付ゆ行ゆ
ゆ行ゆ行ゆ女ゆ
夏ゆ行ゆ出ゆ渡ゆ
松ゆ岸ゆ
し雪ゆ山ゆ松ゆ雪ゆ
よ流ゆ野ゆ雪ゆ
ゆ入ゆ
ゆ

もゆ
ゆ
ゆ

さて此由作りなして、ものも繁く人あり
うべき時、ようへたるとよつきて、まく
名をなる業をしかまひてよくく
とうきをへと　山風まよ雲に
ゆさ水茎の筆の跡のきそんやう
ようせよきりく　かくるれう
うきすれんのね怠り此由とよる
やとこそいうたんのたて縁アてん
行とて遅くくうたうそ　ものき
ものすれのして遅くゆうてん　拙い
やうものすず　夏うげの遊う
みて行くなく女の来アるひく
ゆうよ罪業の報ひ　くくべ日経
ういて論吊ひて給れとそよのう人

ぞの社家の人どよりをしへるひつき
たる論ゆうびくれよりとと思へを
行まこしかまもやうたてやお
ひも頼うひもの論かひ
とやうのくそみよのの花
を雲と思へきれうてくきあまで
やとこそ　機いれよ勢ものいと
うくひ　難ひやお　言語道の
ものきのものすれのあるれ気あてハ
ゆうよ拙いやう所人の付うれる
そのをとの名業にへ跡をハ憑よ吊ひ
てまるまへべし　行とうつきとうう
をうべき判官殿よ仕へをも意
判官殿ひれ人多自中うもよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心もとまぬ舞の袖ぞ[illegible]

めぐる昔恋しき時の和琴[illegible]

志[illegible]

[illegible]

[illegible]

急に行くよ先かたや陸奥の安達原よ
まそてはあるゝ岩手や日乃出てん洗
あるうよ人里もなく作あきよ
火乃光のみしに行くよ立ち宿を
かるやと作実儀人のお
られなかなきよもあるゝ
かるれ世よ秋乃まてぞさきの
ぬ人のあがも腕を枕ぬるぶ
をまくばるも寒く寄ぬまてぬ
どろ世よ切ぐ人命ある蓋宮めれ
ぬ生涯やお めよ洗屋乃うち人
雪乃よ
うもめ成人ぞ
いかるやあるゝはの絵へ抓ゝ始て陸奥
乃ぐ立家よゆさきて宿をかるべき

俤もあ、ぬ、ぬ、ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めの板屋を音よりかぞへ立原の墨
塚よりでもきろ鬼の[illegible]かあり
[illegible]やかまくきめとみちのく
の安達家の墨塚よ鬼でもけりと
詠きんぐうの心もかくや読と
[illegible]ろもまぐれ所をきぐべ
べき方へたらねばたよ[illegible]きくよ
てかくく　めるよあき成宮
傳とまれと社ばけしかくち屋
[illegible]とおさ風よおきれまつらき
恨よ者りたりむはをてぐひほの
[illegible]感陽官の燃ぐくろ　[illegible]
山風吹落く　[illegible]稲妻天地
よみて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

賀茂

清き水に手をかけてやすらへ賀茂
岩宮居よ弟賀茂　柳見ハ播
州宮乃明神より住吉神社の者
なり扨て都乃賀茂と當社宮
乃明神と神一神なるは何ゆえ
ぞ手短申ハ昔より頼朝思ふ
都乃賀茂へと急ぎ給ふ
宮のとほうの未明うゆ
袴衣色ふかき風にかたち行舟
もゆ乃ほの雲井やくもの月乃
影の山陰乃そこの宮居よ名ケ
そうく　けれ手洗やぼうき心よ
もを水のつがも乃行原よ出るなり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりくれの下に白川の早に上は賀茂
の又昔しらるる名の
高川やせんかいのきよきせに
石川やせんかいのきよきせに
月もまつれを尋ねてそ
も寄るも同じ江にぞすむ
仆駿河の国の宇の夫の早く
きるる雲陰にてもなるぬ
もとの水流きにもつきず絶まぬそ
ぞ向かまるいさぎく水と流れく
虎義
うらみやしいちきよきいもの
せの水とにごる水面あらん
とかの常根松のなるさらの離津流
さまもむれ音ある水やまよはば
地上
水とまるみ〜大井川の紅葉

雨つるる 昔つるる 雨の音 清滝川
水くまの高根に深雪とまれるの
明日まもあるてはつよ くまの音
羽の激浪 うきてかつらの雪とも
見 嵐く桶も ちとも
岩打ちてもなるも同じ
きの日を常の魂をつ
ゐ渡るの水流とつの
乃ぬまつよ乃乃心くまつよ
今有難きうれが板の夢語と
ゆ乃ゆ乃人やらん 乃とは
人の愚也はやらんや乃乃
ものを向へ面て君と奇とつの此乃

徳を告げ知らしめんと願い出ず
[illegible]
[illegible]
計いまつるべきやうもなきことなれば
[illegible]
[illegible]
[illegible]

たよりなるいろうろう雨ふりとして
ひろうろう音ハ
ほろ〳〵ほろ〳〵ほろ〳〵ほろ〳〵ほろ〳〵
ほろ〳〵敵の陣にも五穀成就
し国土ハ豊かなる時ハ此
神徳と感応をあらはしまして
御社の神殿の森ハ鬱々
いろ〳〵ハ雲きりを
おろしつれ雨ふりもよろこ
ひ天地よりの御
感応をあらはしたまひ

俊寛

早速ハ相国の仕へ者ハ
此度中宮御産の祈りの為
ニ非常の大赦行はるべきよし国々
ハ流人赦免あるべしと雖も鬼界ヶ嶋
の流人の内丹波の少将成経・平判
官康頼二人赦免の使をハ某
ハ
つて
ハ
ハ
ハ

[illegible]

勅諸ノ都より[illegible]道の九十九
處のまゝ[illegible]順礼[illegible]
ぬさとなしつゝ[illegible]宮
居と三熊野のうら浦[illegible]
とゝ[illegible]麻[illegible]
まゝ白[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

罪はおのづから配所も同じ配所にて
常も同じ大和なれば
あるにもれて深き異なるべきにあらず
況んや二人一所にあるべきにあらず
もし同じ所に流されば
て流されたるべしとぞ
もてあつかひ
鴻ハ究竟の鴻とぞ
なれば流あるべ
とて
加賀
計あり有様
聞て
感じ
くに
鳥も

康頼は鉄よりつをば　僧都を
ゑよかまとまとげきあるを云
なれば　たくやおかほやものの
わるくとをるつのあきべせめくい
向ひて地をしかれば情よまそうびの
情もきつの母ども櫓櫂とかう上
うたうて　ひとり命のかまりけよ
よ立りつ出ゑ縄よ夜つきひきと
ひ　母へやもつを押きつて母を
ゑんよとをひ　をとうとうよ
けるうばまと合て母よまり
としとどのをけきべ　ちうとねびて後
貴き　本乃清よひき卯て入浦
けよ姫ゑ　おうよもまりと老

もおりまひまりあきたりけ痛つの
はゑ車や船ら都よりゑ京よりきやう
まりあるつやうて海ゑ海ゑ方へし
心つらく海へ　帰落とすてよと
つよりわ手も縁まるゑ車をまつ張
よまとあさりてやうり　男やい
かうとクの塔ゑとよ後貴を　申
あとさてもすく　三人　かあひ海へ
しや　見ハ波ら三人あるよ頼し
うよ東うてまてよくとい色
をあるも幕ままをうるまつ波乃
鐘ある聲たて母ゑ人歌をきえ
てみえ叫よまう泣きてたひ
あるよまを

松風

平内

昔八諸國一見に備うてハ秋来西國をみとん行よ洲度思ひ立西國行脚と
あてハ芸姉〜や立て行よ先ハ
津の國と西の浦とやらんと名成
神名をたれハ樣有き所ハ松ハ
松謂ハあさ〜いハまし洲ハ
人よ寿ひやと思ハん梅ハ洲松ハ
松ハ村雨とて二人つゝ西ハ日師ハ
つや其分ハ中ハ堀きめ紀ハ名ハ
月世ハ
緑ハ松をこ〜ハ乃ハ
經ハ
ひとて行ハ言てハ

ハ程遠くハ行よ思ハ成ハ西ハ塩屋
塩ハ車ハ
浪寄ハ西の浦月ハ
海ハ
月ハ
ハ中ハ書
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

[illegible]月の出塩をいとやばかなく

上青

歌もつくべき秋なれば思ひ車とひく

塩の路よりもたまり水いたく[illegible]

いもつべき野辺の草に露あり[illegible]

きももうすべきよ[illegible]

[illegible]墨のまてはつるよ杉[illegible]

秋水

面白やあわくもあわの

夕間雲あり風の吹こゝ[illegible]

ちいさ[illegible]舟のゝを繰る月しろ

かりの浦やあま島野の塩[illegible]

[illegible]前の秋ありまも意もこの

よ[illegible]やあ[illegible]

[illegible]塩をぬんとく

[illegible]みちひの塩哀の

[illegible]

[illegible]

上青

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の塩[illegible]
人[illegible]もつきのく[illegible]塩
[illegible]まで[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]塩[illegible]車[illegible]月[illegible]
[illegible]塩[illegible]
[illegible]
[illegible]

分あるねばづくと宮と定むべき長と
洗と風と浦とに心あるべき人はげさとも信
て法住べきれどもこの人あるべき風
と浦とに住べきほたもつまずとこの人と
行平も誠に給ひしとありよりこの
嘆べよ一ぞの松のかをと人と毒てくべ
松と村雨三人と為る風の但跡とやとれ
程ぞ逆縁ぞと弔ひて法通ひられひつま
ぞつまやと松も村雨のるとまてくべ
ニ人其よりお慈悲に行とまてくべ
そいぞ　宮や男の問ひあれば
所よ顕きまるべ海ぞやわるべ
人ぞ人ぞ松と海とに住
ぞ執とれまるべ海ぞとび恋

い、海　尚執とれまるべ海ぞとび
ぞ海　尚執とれまるべ海ぞとび
ハ此世とあるさ人の主宰也とわるる
子もあるべ人ひあるべ形　謹不審
人ハ二人ぞ人ぞ名ぞ長ぞ人　取
とちとすきとわるべハとぞ人ぞ
あるさ跡の世とまるべ元又　ぞ海
恨めるべきるべ海　此人ハ行と
かるべ三つ人ぞ人ぞ人ぞ人ぞ
ぞ松陰の言ぞ人ぞ人ぞ跡ぞ
しぞ海ぞ松ぞ村雨二人ぞ女の幽霊
是迷ぞ海ぞ海ぞ行平三ぞ
狂ぞ海ぞ海ぞ海ぞ海ぞ月ぞ
と風の浦ぞ海ぞ海ぞ海ぞ海ぞ
ぞ海ぞ海ぞ海ぞ海ぞ海ぞ

[illegible]

三年もとゆきゆき行平都よりのぼり給ひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西行桜

夢幻能

[ワキ]侍ども桜がりにと山路に出でぬ

[ワキツレ]急ぐ道

[ワキ]かねてより聞き及びし西行桜

[ワキツレ]よしなき者ども下京過

[ワキ]ぎて

[ワキツレ]はや

[ワキ]

[ワキツレ]

[ワキ]

[ワキツレ]

[ワキ]

[ワキツレ]

ぞよ木間をとのつゝ見給へ松の結
縁だにかなむと思ふ所にて
れい花をゝりあるべき面白やば
日本一の作きをんなやうにて申ける
なるゝ都より洛中庭の花をた
ずさへて先遣はせ給へ
仕とおもうとして此菴室に華を
おかんため是遣まるの給
やすかいはんに　ねうう陽の花
感いたくもとしれおかう西行ゲ唐
室にも花も一本我も獨とみる
おもと花かへりうと先きまん事
いうあれば先遣で来たる心ばりを
がきをでいかゝうひ給きばの栄盛

乃戸をひらきへいまとく　是くい
いうかゝくゝ中ぶきは機嫌よきてゝ
へべをもせとれたりすそれ行よ
ゝ　桜花
咲よきゝ　なを申の山ひとり
みゝまく此木のもとたちよれ
我心なる花の本よ嘆花落
梅と親つ獨り心とをすの風よ
貴賤群集のいろゝ心花もり
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
かゝれ有の山いへ去　ゝ
都あれば　桂人去花よれ行と隠
家のゝく有きゝれ　ゝ
よやうゝく山とうさの世乃ちゝよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詠集のことばにて詠する
あり　あやうしあり　怪異ようが
ゆんよりとよろこび世をみるもの
なるもいはれ人の心よりなる非精世
の草木花は浮世のとがあり
哀と見い初也扇ようやうとしり
をあひ生ずるもの桜花木の精の
就い花の精あるべき世をもれと考ま
の梅　花めいもの草まあれども
とうれきとれとつまれ　哀くら
ひくと　うとうひあり　そうや
考ま乃花ももくあり枝ちくあ
たく梅のどれあさくしてひくく
花の精みてはあり花ところあさ草ま

も花哀のかりわとれあり草木国土
皆成仏はあるべ　乃縁や上
人乃仏値遇よひわくめくこの露
あまはく花檻前咲ぐ色いまぐき
ひ鳥木下よ鳴てあるつさぐて
うれ朝よ帰花とうて相撲て
暮よ茅鳥よ隠つく一時よ縁が
九重きもそも花のやへ桜いく世の
春とかさねん　光ようれよしの名
高きもぞつ初花とあくあるが俳人
乃ひとしりくやひわくを柳桜をこ
きまぜて都いまれ錦ばりをうんた
ぞ乃桜と植ときうろ乃を
可乃ものよひるぞ乃花ちり

雲霧や雲のうちなる花の門　堂れ
も見さかり　四王天の紫花も見よ
いてまりつべきあるべき　谷下り
風むし　遍昭僧正の　引き世と
とひ　花の山　ろうやまの花
の色　ながめつるのやまもまぐ
思ひ　ちるわくやられなり　清水寺
の地主　松吹　音羽山
　　
　　
　　

浮船

[年]月日　是ハ諸國一見ハ僧みちくり。我
此頃ハ初瀬あたりなりとよう都ふ
のほりもやと思ひ初瀬山ぶよ
りし暮し宮もそやく桜原の
うそよ三輪の山ぶしも杉も立ち
思ひよりのもの山ぶしやすらふ
そなくこゑのわりやあれやまう
ちの浦のもぶよりくく急ぎ
よ見へもや宮ぶの里よ見えて山皆
やもうひとりもあるもやと思ひ
ぶつ舟のうらぬもたつきぶ
らうの水　うきいとの科うとそだ
世をかうつのもおし　位そぬ

もみうらの橋様、うらめうら
き思ひ出ぶ露ぶうきぶ
て　ぶ　ぶ　ぶ
を縁くぶ　ぶ　ぶ
よ月ぶ　月日もうきよ
行末のうく　ぶ
頼をかまて　め縄ぶ世
いつまく

[年]月日　是なる
世ぶ寿ぶきのれ　此方ハ事
ぶてぶ行事ぶく　此宮ぶ
の里よとて古いうく人の信濃
ていそ委ぶ語く　有よハ位く
賜ぶきオてハバ妻きぶも
ぶびん出ぶく此有よハ浮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わざとやはなよりはもいとのつくるる
所うの梅はいとよきとて有明の月は
賞する[illegible]なるよ　水の面も曇りなく
梅ばちとめしかるとて[illegible]の氷みて
らく[illegible]　[illegible]とうるもめるる
ぬれ[illegible]ありがたく[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はや本よう和はほ母のどるおのわっ
て左ようの母ようき名きれんと男る
ゐび此世よ出るもおるやと明堂
男るるづくくべるあれ左るよ素
やもれも出左まべれもきう行
張おるきえるよるる男れまと
きついちおいゆと男るうる心も
宮よ飛て上ありきれおされ事
きなく 和うれきるきえる角やや
女上 ゆあまるやあるるれやん
陸 小鳥の宅いかるしと 此うき角ず
ずるべきるきぬ姫大悪大悲のるとうり
急くよよひろきれとすよわるるろ
ゐるるよるるるびうるて出る日の

墨をとるぬえるとあつるさるて
やるよ来ふべきれよかきて頼しよ
頼るるるの親音れ慈悲く初瀬
れたるるよ横川の僧都よるまれ
つ小野よるもあひるもちして
ものきるるも夢のよよ
みるれはひやよるれ杖のるさ
るるも夢よあるれみ行ひ
此もれまたるるよ吊ひうきん
しるしよ男るるまるよ執心れて
法寺よも角るるまきしよと
男ば明左るよるるとれよば明ろ
横川乃杖のあるや弱る焼杖の
尾るやのるれん

明治二十六年二月十七日印　刷
明治二十六年二月十七日訂正出版
明治三十五年十一月廿日別製本御届

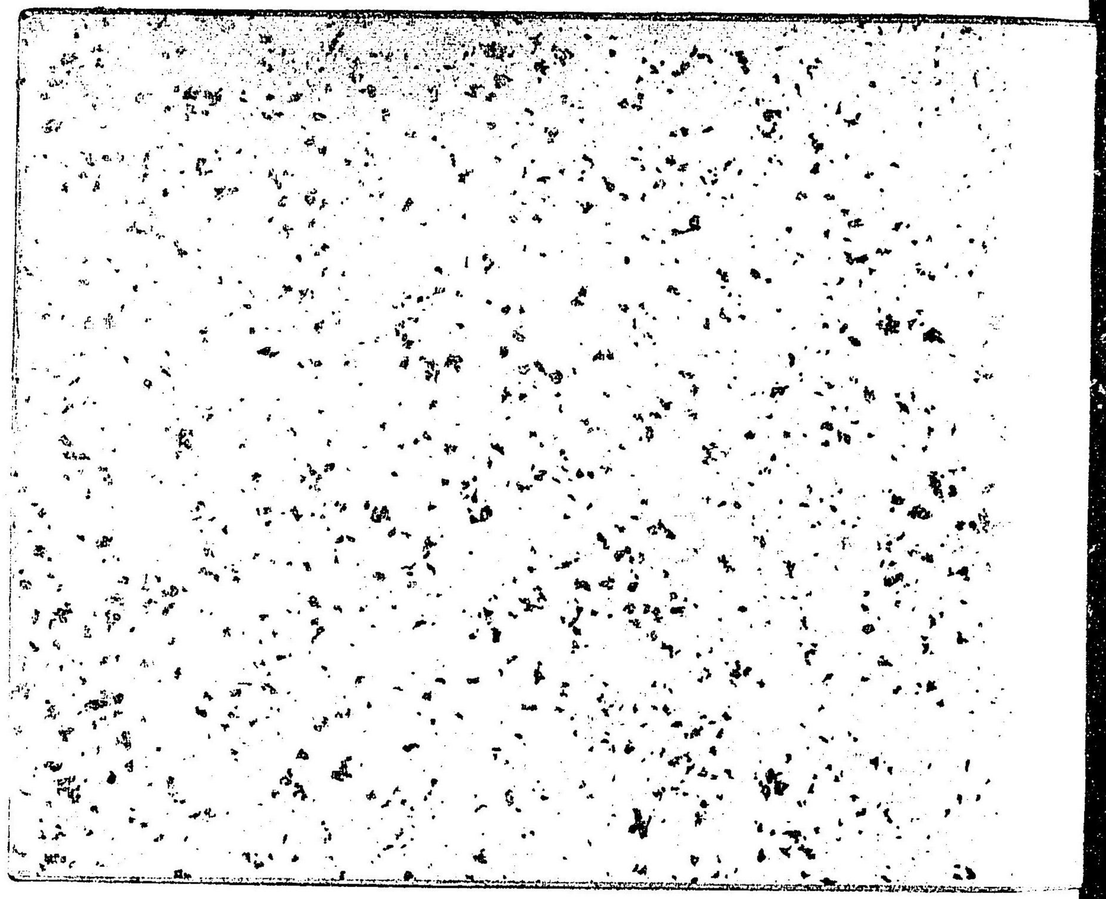
東京市牛込區新小川町
二丁目十番地
訂正者　觀世清廉

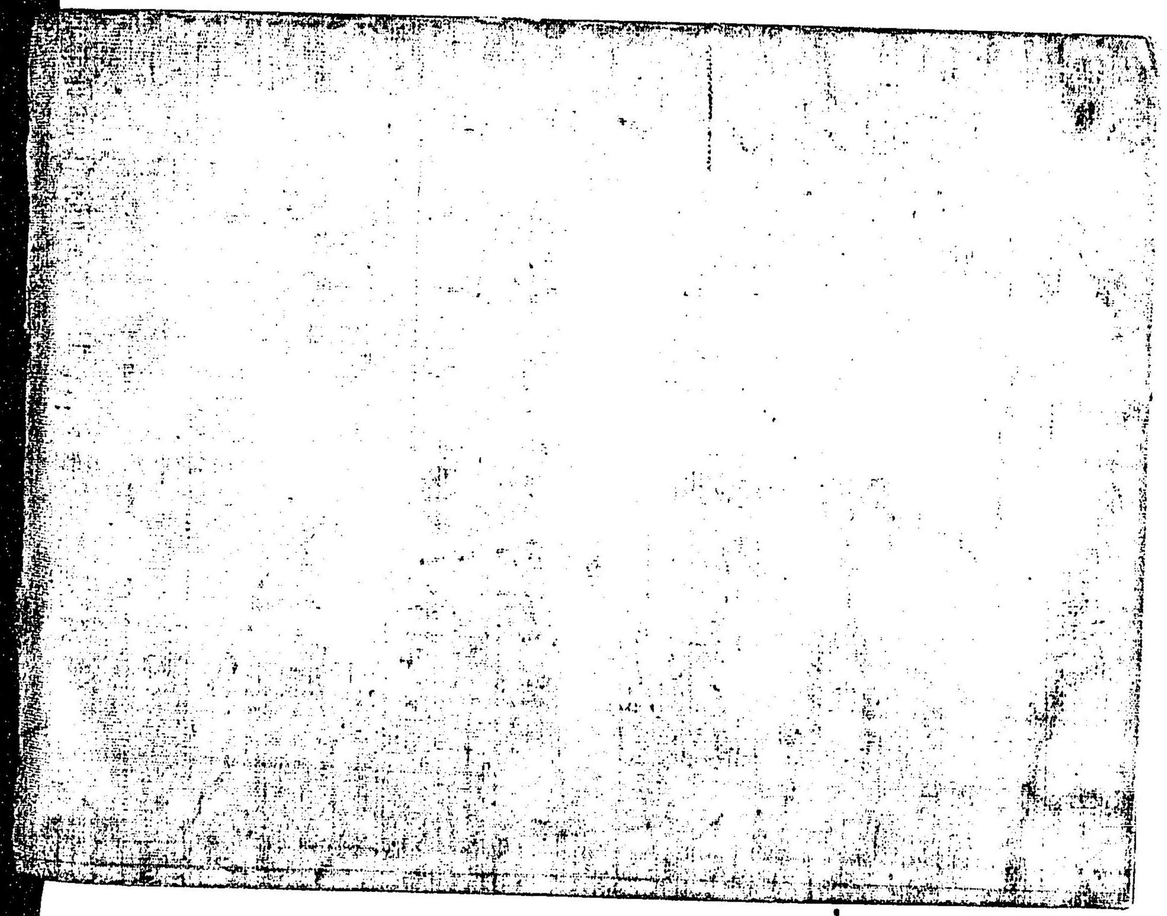
京都市上京區二條通
御幸町西十一番戸
発行兼
印刷者　檜　常之助

京都市下京區松原通
高倉東入
印刷所　石田旭山

石田旭山堂真石版部印刷

版權所有





特57
563

075020-001-6

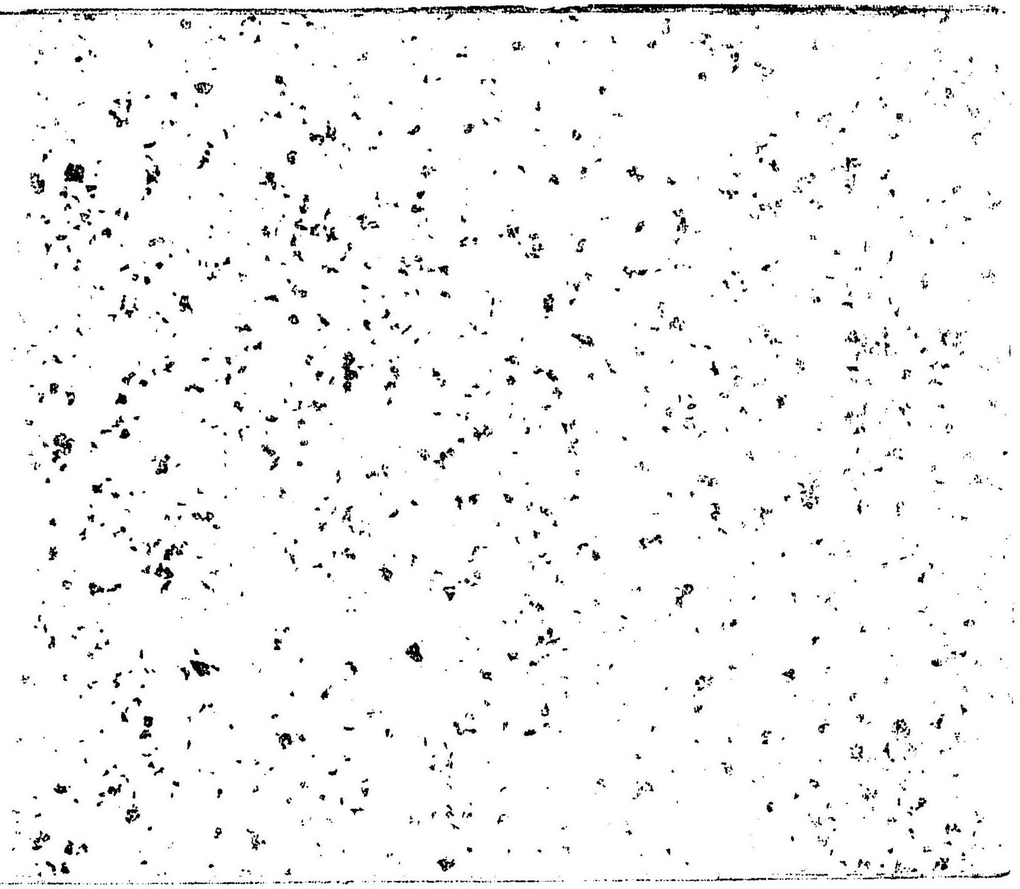
特57-563

旅の友

観世 清廉／訂

花

M35-36

CEL-0945

563